

海老名災ボラ情報 No.5 10月の報告、11月中旬以降の予定など

2020年11月10日発信、文責：海老名災ボランティアネットワーク代表・福田博

(以下：人名については敬称を省略します)

【1】今後の予定 2020年11月～12月

1) 風水害対策講習会の参加者募集中：11月14日(土)9時30分～11時30分

11月31日(土)の風水害対策講習会(午前・第1回、午後・第2回)に続き、第3回目の講習会の参加者募集中。【会場】海老名市総合福祉会館第3会議室(2階)。参加人数枠：18名以内

【時間】受付開始9時30分～講演開始10時～講演終了11時30分(質疑を含む)、消毒・清掃。

★第3回目は、海老名市自治会連合会防災戸建て部会との共催ではなく、海老名災ボラ単独開催となりました。災ボラ会員(個人、賛助、団体)で未だ受講していない方はぜひ参加してください。災ボラに加盟している団体の方は5名以上の参加が出来るので事前申込をお願いします。

【申込先】海老名市ボラ代表：福田090-2160-4352、副代表：星野090-6300-6967

【講演の概要】講師：中村敏一(消防庁・消防防災科学センター凶上訓練指導員、災ボラ会員)

地震災害と比較しながら、風水害(台風、豪雨、土砂崩れ等)対策について、講演します。

【注意事項】マスク着用、手指の消毒の励行、体温測定(非接触型体温計を利用)

【持参して欲しい資料】「海老名市防災ガイドブック」保存版、令和2年3月に市が発行。

★講習会と定例会が重複したので、災ボラの11月定例会はありません。

2) 11月18日(水)「海老名災ボラネットワークだより第36号の発行(自治会回覧用)」

①印刷作業：11月18日(水)9時～福祉会館事務室前で印刷作業、A4裏表、白黒、5500枚。

事前の原稿作成は福田・野中、各自治会宛表紙の差し込み印刷は野中が実行・完了。

②封入・封緘・梱包作業：11月18日(水)9時30分～11時頃まで、2階視聴覚室

③印刷した文書の運搬等：福祉会館から市役所地下へ車で運び込み、指定場所に配置する。

④これら文書を、市役所の担当者が各自治会宛に配送する(11月20日)

①～③の作業に参加できる方を募集中です。現在：4名(福田、星野、水本、小澤)

3) 11月24日(火)18時30分～20時、神奈川災ボラ運営委員会

会場：神奈川県民サポートセンター11階、会場参加が無理な場合はZoomでの参加も可能です。

海老名災ボラからの参加予定者：福田博、嶋原義弘

4) 12月12日(土)10時～12時 海老名災ボラ定例会

定例会のテーマは、事前に議事次第としてメーリングリストで配信します。

【2】会計からの報告(松井会計) 2020年10月末までの会計報告

1) 一般会計 2020年10末日現在 370,083円(-6,209円)、()内は9月末比
会員数：個人会員31名(±0)、賛助会員13名(±0)、団体会員3団体(±0)

2) 特別会計 23,540円(±0円、9月末比)

【3】活動報告：10月上旬～11月上旬までの活動報告

(1) 海老名災ボラ（内部）活動の報告

1) 10月31日（土）「風水害から身を守る」講習会を開催

「風水害から身を守る」講習会（海老名災害ボランティアネットワークと「海老名市自治会連合会防災部会・戸建て部会」の共催）を10月31日（土）午前と午後の2回、海老名市総合福祉会館（第4会議室）で開催しました。講師：中村敏一、司会・受付：福田、星野

① 新型コロナ感染症対策を講じて実施。

- 会議室の広さに対応した参加人数制限（事前の申込制で、18名以下に制限しました。）
- マスク着用、手指の消毒、体温測定（非接触型体温計を災ボラとして購入）
- 窓を開けて換気（密閉防止）、○座席間隔を空ける（密集防止）、
- 対面して大声で話さない（密接防止）

② 参加者：自治会長と海老名災ボラの会員に限定したリーダー研修として実施。

午前の部：13名、災ボラ出席者：吉野、松井、三宅、佐々木、石丸、講師等：中村、福田、星野

午後の部：14名、災ボラ出席者：山本、嶋原、上野、黒田、小澤、講師等：中村、星野、福田

③ 風水害対策講習会の概要

講師：中村敏一（海老名災ボラ会員、消防防災科学センター図上訓練指導員）

○地震と風水害の違いを認識しよう！ 地震は突然、台風は気象情報で動きが分かる。

○ハザードマップを見て被害のシュミレーションをしてみよう！ 床上浸水、道路冠水、停電など

○避難について：地域の状況（土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域）で異なること、災害の進捗状況が刻々と変化していくことに注意して、早めの避難（水平避難、垂直避難）が重要です。

○災害予防管理（日常的な事前の備え）と災害活動管理（災害発生時の活動）が必要です。

○マイタイムラインの作成：台風接近などの際に自分が取るべき防災行動計画を自分で作成する。

時間の変化に沿い気象情報や市からの情報などに注意し、自分の取るべき行動をつくっておく。

○地域のマイタイムラインの作成：自治会・自主防災組織が取るべき防災行動計画。台風等が接近する前の行動（連絡体制、避難所開設情報など）と、台風等が去った後の行動（安否確認など）。 ○特に災害時要支援者名簿の確認（要支援者がどこにいるのか等）と支援活動を決めておく。

【質疑討論】河原口の自治会：昨年の台風19号の経験を基に、洪水浸水時の「一時避難場所」としてマンション等を指定した。地域内のパチンコ店の駐車場を一時避難場所として協定を結んだ。

2) 海老名災ボラ情報 No.4の発行：9月21日発行、内容は2020年度第1回定例会の報告

3) 海老名災ボラlineグループ作成と会員（個人、賛助、団体）に対する招待作業を継続中。

避難する時にスマホや携帯電話を持って行く人が多いことから、緊急時の連絡としてはパソコン中心ネットワーク（メーリングリスト）よりもスマホのネットワークの方が重要になると思います。担当（福田）：9月中旬以降～海老名災ボラlineグループへの招待作業を実施しているが、11月10日現在の参加者は21名（個人会員、賛助会員、団体会員代表者）となっており、会員総数47名の約45%です。今後も、焦らず「招待作業」を続けます。皆さんの参加をお願いします。

4) 海老名災ボラのホームページの更新の件（広報班メンバーを中軸にして検討を進める）

海老名災ボラのホームページは橋本前代表が更新しておりました。2018年5月に館登志子さんがリニューアルを実施、8月には館さんが入会案内を更新、11月24日に館さんが活動内容を追加してくれまし

た。それ以降、館さんが忙しくなり、更新が出来ておりません。

この問題の解決には、作業負荷が一人に集中することを避けて、ホームページを更新できる「技能を持った会員」を増やしていくことが重要であると思います。ホームページの更新に適したアプリの利用も含めて、更新作業が出来る人を増やしていくことを検討したいと思います。

現状を改善するための会議（Zoom など）を、広報班や関心のある会員の皆さんの協力も得て、適切な時期に開催したいと思います。

（２）社協関係の活動報告

◎海老名市防災関連3者定例会 11月9日（月）15時～16時30分、会場：福祉会館

【出席者】市社協：岩澤、市危機管理課：山口、災ボラ：福田、星野

【報告の概要】

1) 海老名市危機管理課：山口より提起、海老名市公式ウェブサイトから下記の記事を見て欲しい。

① 海老名市公式ウェブサイト>防災>「コロナ禍における避難所対策を推進中」

「新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所開設運営のガイドライン」を策定した。

研修及び訓練の実施：令和2年7月21～22日、図上検討の実施：令和2年7月下旬～8月上旬

実地訓練の実施：令和2年8月14日、25日

② 海老名市災害対策本部として、災害救援ボランティアセンターに対する要請としては、福祉・医療関係のボランティア派遣の要請を中心にして、一般ボランティアの派遣要請は出来るだけ抑制したいと考えている（九州でみられたように、コロナ禍では県外からのボランティアが少ない状況を想定している）。

③ 各自治会1名であった防災指導員を2名に増員する市の方針を11月9日（月）の自治会連合会の役員会で説明した。

2) 社協：岩澤より提起

① 災害時における海老名市社協の活動マニュアルの見直しを行った。これは、災害ボランティアセンターの開設・運営だけでなく、海老名市社協活動の全体に関わるものである。

② 2019年度まで実施してきた「災害救援ボランティア養成講座」（社協主催・災ボラ協力）は、2020年度には実施する予定はない。（従来は、ボランティアセンターのスタッフ養成講座であった）。

社協職員の異動（退職と入職）で、社協職員の入れ替わりも多く、2018年のビックレスキュー神奈川・海老名市を経験した職員も少なくなってきたおり、社協職員の教育・研修も必要であると思っている。

③ 従来の「コーディネーター養成講座」を受講した市民が、これを契機に海老名災ボラに入会してきたが、2020年2月の「コーデでネーター養成講座」では、災ボラに入会した市民は0であった。そうした状態が続くならば、災ボラの会員拡大と活動の継続も次第に困難になっていく可能性がある。海老名災ボラでは、従来の「コーディネーター養成講座」での会員拡大ではなく、別な方法での会員拡大を検討してもらいたい。

3) 災ボラ：福田より提起

① 海老名災ボラの歴史を見ると次のことが分かる。1995年の阪神淡路大震災に現地でボランティア活動に参加した人を中軸にして、神奈川災ボラの支援を受けて2001年に海老名災ボラが創設された。その後の活動で、会員が拡大した時期や縮小した時期という山と谷があったようだ。この時期を担ったボランティアを「阪神淡路世代」（第一世代）とすれば、2011年3月の東日本大震災の衝撃から災ボラ活動に入った世代を「東日本大震災世代」（第2世代）とすれば、今後、起こるかもしれない大震災（首都直下型地震や東南海大地震など）で災ボラ活動を担う人材（第3世代）を養成する必要を強く感じている。

- ② 今後の大震災での災害ボランティア活動を担う人材は、最近、頻発している風水害（台風、集中豪雨、地震など）に対する被災地支援で現地に行き、そこで被災地・被災者の現状を「見る・聴く・感じる」経験をバネに、「海老名での災害に対する備え」の必要を強く感じるようになるのだと私は思う。被災地支援活動と海老名での活動の循環構造を作り出すことで、市民の関心を高め、その中から災害ボランティア活動に参加するために海老名災ボラの会員になる人も出てくると思う。市民の関心が高まれば、自動的に災害ボランティア活動に参加する人が増え、会員が増えるという単純な関係ではない。何か大きなギャップがあるように思う。このギャップを埋めるものが何か、未だ明確ではないが、そこに向けての検討と努力は続ける。
- ③ コロナ対策としてボランティアセンターで必要な備品（マスク、消毒液、フェイスシールド、防御ガウンなど）を社協として備えて欲しい。

コロナ禍でのボランティアセンターの開設・運営訓練を、社協主催・災ボラ協力で、来年早い時期に文化会館で実施したいので、検討をお願いしたい。

【討論】

① 社協：岩澤より提起

2021年1月23日に座間市社協が「ボランティアセンター」の立ち上げ訓練を予定しており、その見学についての話が進んでいる。2021年1月1日の「ぬくもり通信、社協えびな」で、海老名市民の見学者を募集する予定である。海老名災ボラの会員に参加して欲しい。

災ボラ福田：海老名災ボラの会員にも呼びかけてみる。

② 社協：岩澤より提起、海老名市文化会館の2月の休館日に、文化会館で、コロナ禍での災害救援ボランティアセンターの立ち上げ訓練をやりたいと考えている。

③ 危機管理課：山口より提起

コロナ禍での避難所訓練を実施した中で、ガウンについては着脱を上手に行わないと感染の危険が増大する面もある。避難所では体調が悪い人も受け入れるので、ガウンの必要性はある、しかし、体調が良くないボランティアは、ボランティア活動に参加させないで帰ってもらうので、ボラセンではガウンは必要ないのではないか？

④ 災ボラ：福田より提起

防災指導員を増やすことは良いが、災害への備えや災害時の活動でも十分に機能するように、しっかりと研修を実施し、活動意欲を高めてもらいたい。災ボラのメンバーで既に防災指導員をやっている人もいるが、積極的に防災指導員になって自治会と協力して「地域の防災力向上」に貢献出来るように、会員に呼びかけたいと思う。

(3) 神奈川災ボラ (KSVN) 関係の活動報告

- ①10月31日（土）18時30分～神奈川災ボラ組織強化委員会：内容は省略
会場は神奈川県民センター11階、福田が自宅からZoomで参加

以上